

令和5年度 本校の教育目標及び経営の基調

熊本市立山ノ内小学校

1 教育目標 豊かな心と生きて働く力を身に付けた子どもの育成

【校訓】心豊かに 理想は高く りりしく 強く 山ノ内

【本年度の努力目標】「笑顔いっぱい、夢いっぱい、緑（命）いっぱいの学校づくり」

2 本校教育の基本

教育基本法、熊本市教育大綱及び熊本市教育振興基本計画に示された基本理念、熊本市教育方針と取組の方向等を受け、激しい社会環境の変化においてもたくましく生き抜くために、豊かな人間性、学びに向かう力、健やかな体を備えた、主体的に考え行動できる子どもを育てる。

3 教育目標設定の理由

昨今、AIの進化、価値観の多様化、災害や感染症の発生等、予測困難な時代になっている。このような教育環境の変化により、様々な課題を抱えるようになっている。

本校は永年、環境緑化活動を推進してきた。このことは、バーチャル体験によって育ってきた子どもたちにとって、重要であると考え。実際、本校の子どもたちは、明るく素直で、思いやりのある子が多い。美しいものに感動し、常に生きることの喜びと感謝の気持ちに満ち、明るく、前向きに、たくましく生きようとする心を「豊かな心」ととらえ、自分を大事にすると同時に他人を思いやる心を育てていきたいと考える。

また、本校では、国際理解教育、外国語教育、国語科を核に、子どもコミュニケーション力を伸ばす教育実践を積み重ねてきた。その経験を生かし、子ども一人一人が、よりよく生きようと、思考判断し、場に応じて実践する力を「生きて働く力」ととらえ、変化の激しい社会の中で、知恵を出し合い「協働」して問題解決を図っていく資質・能力を育てていきたいと考える。

さらに、現行学習指導要領を踏まえ、新しい時代に必要な資質・能力の育成を目指し、「何ができるようになるか」の観点から、「何を学ぶか」の教育内容、「どのように学ぶか」の学習過程の質的改善を図る「カリキュラム・マネジメント」を本校でも確立していく。

4 学校経営の基調

① 「子どもたちは成長途中で未完成な状態である」という認識からのスタート

- ・できなくて当たり前からスタートし、実態把握に努め、一人一人の教育的ニーズに応じて、粘り強く日々の指導や支援に当たる。
- ・まずは、子どものことが好きで、分かりやすく、楽しい授業を！。そうすることで教師自身が楽しくなる！。

② 教師は子どもにとって最大の教育環境 → 指標となるモデルとしての自覚

- ・教師と児童との信頼関係なくして教育は成立しない。教師と児童との信頼関係が成り立ったら、次のステップは、児童同士をつなぐこと。児童同士が信頼関係でつながると、自分たちで勝手にどんどんいいクラス、学校になっていく。
- ・教師の人間性、言動が与える影響力の大きさを意識し、自分の言動を振り返りながら、日々の教育実践に取り組む。→「後ろ姿の教育」「学び続ける教師」

③ 支えあう職員集団へ → チームでの対応

- ・それぞれの職員の強みは生かしながらも、苦手分野をお互いにバックアップできる集団。トラブルや困難な状況になったときに学級、学年の垣根を超え、児童や職員に働きかけ、フォローしあえる職員集団へ。一人で頑張り続けることは素晴らしい。しかし、挫折しそうな時、その時が職員集団の力。スーパーマンはいない。